

**関西経済の現況と予測**

**Kansai Economic Insight  
Quarterly  
No.54**

**マクロ経済分析プロジェクト Contributors**

**稲田義久・入江啓彰・小川亮**

**木下祐輔・郭秋薇・野村亮輔・吉田茂一・車競飛**



QRコードより本予測の  
説明動画が視聴できます

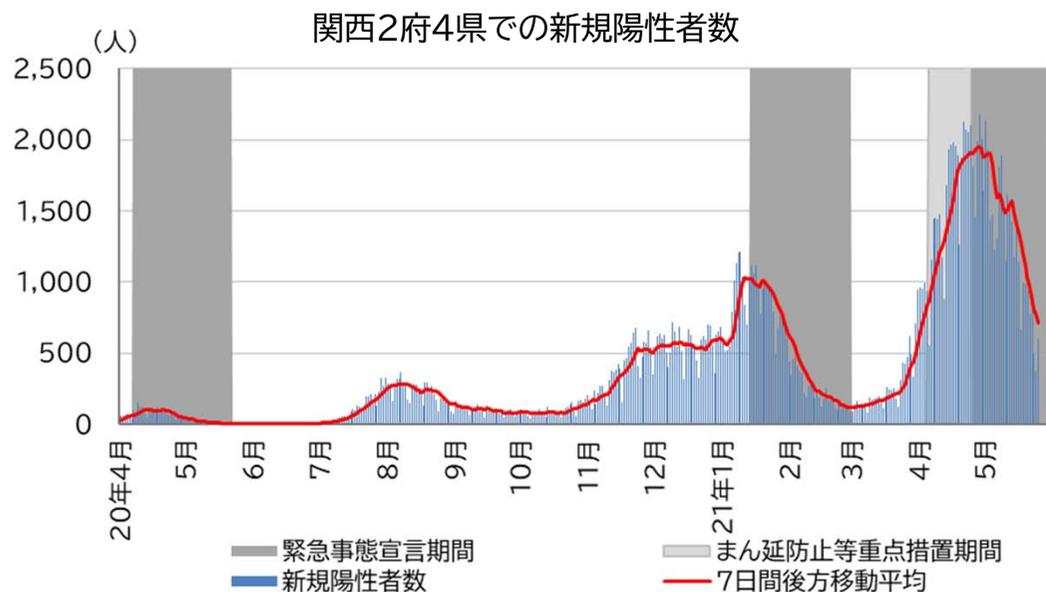
# 緩やかに持ち直している関西経済

## ワクチン接種を促進し、内需主導の確固たる成長を

- ・ 2021年1-3月期の関西経済は、緩やかに持ち直している。ただしコロナ禍が依然続く中、緊急事態宣言等で経済活動が抑制されているため、家計部門や企業部門など内需部門の改善ペースは緩慢である。規模・業種によっても回復度合いに差が見られる。
- ・ 輸出の回復は鮮明となっている。中国向けに続いて、米国向け・EU向けも足下で2019年同月の水準を上回った。ただしインバウンド需要は依然として回復の見込みが立っていない。
- ・ 感染抑制と景気回復の両立に向け、ワクチン接種の進展は、経済活動再開を促進しよう。その際、さらなる景気加速のために、外需頼みではなく、内需を刺激する経済対策も望まれる。過剰な自粛・萎縮は避け「正しく恐れる」ことが必要である。

# 関西でのCOVID-19感染状況

- ✓ 関西2府4県の累積陽性者数は16万7,430人(対全国比23.4%)、死者数は3,689人(同29.8%)に上る(5月24日時点)。
- ✓ 新規陽性者数は「第4波」が4月末にピークアウトし、足下で減少している。実効再生産数も5月には1を下回っており、感染は収束に向かっている。
- ✓ ただし、重症患者病床使用率は依然として高水準にあるため、関西2府1県での緊急事態宣言は6月以降も継続となる。

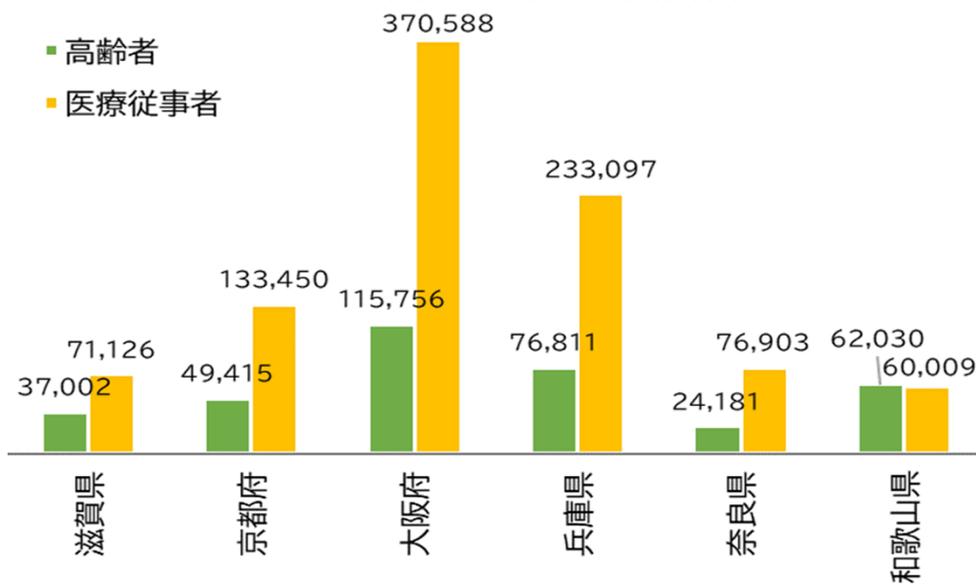


注:実効再生産数は、(直近7日間の新規陽性者数/その前7日間の新規陽性者数)^(平均世代時間/報告間隔)とし、平均世代時間は5日、報告間隔は7日で計算。  
出所:各種報道資料、東洋経済ONLINE「新型コロナウイルス国内感染の状況」(<https://toyokeizai.net/sp/visual/tko/covid19/>)をもとに筆者作成

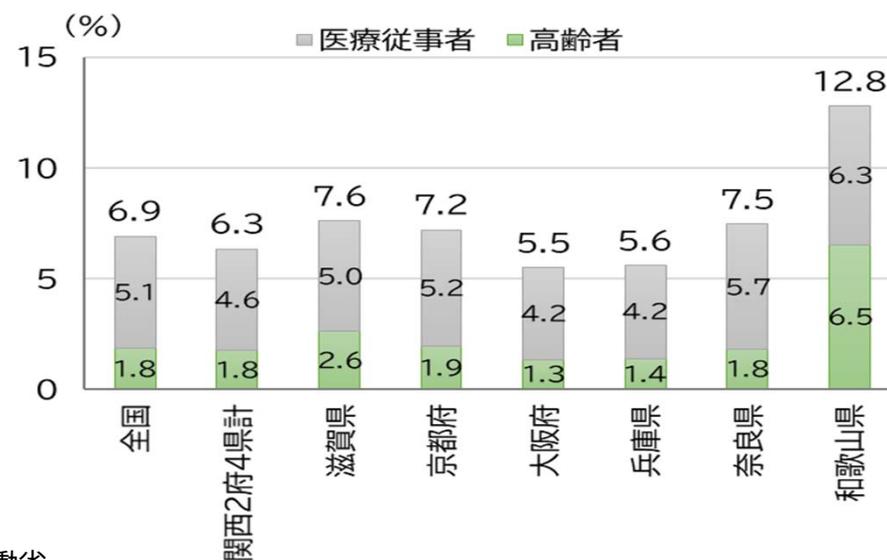
# ワクチン接種状況

- ✓ 関西2府4県のワクチン総接種回数は医療従事者94万5,173回(対全国比14.7%)、高齢者36万5,195回(同15.6%)。対人口比は、関西全体では6.3%で、全国をやや下回っている。府県別では和歌山県が最も先行している。
- ✓ 政府の調査によると、高齢者ワクチン接種を7月末までに終了可能かどうかについて、関西では京都府・兵庫県・奈良県・和歌山県は全市区町村が完了できると回答したが、滋賀県・大阪府では約1割の自治体が間に合わないと回答した。

ワクチン総接種回数(初回、2回目含む)



ワクチン総接種回数 対人口比

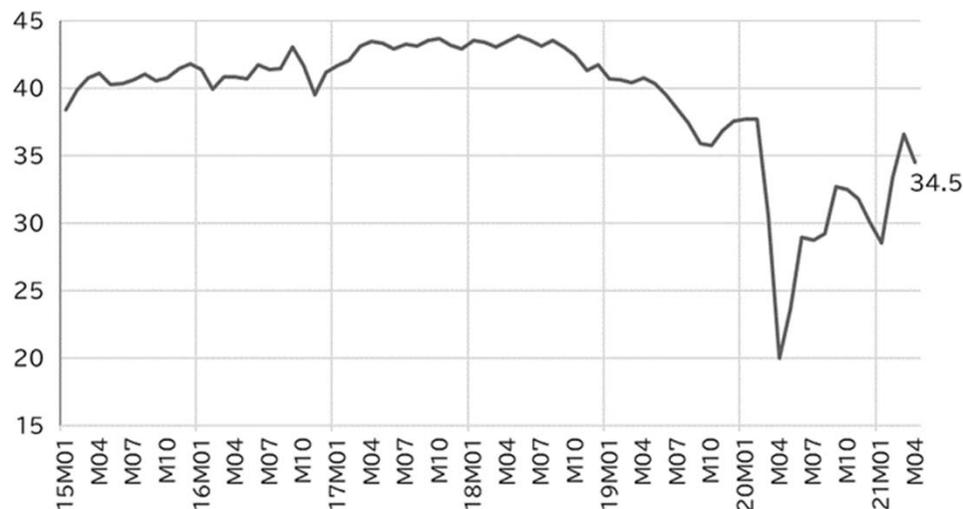


出所:厚生労働省

# 消費者センチメント・大型小売店販売

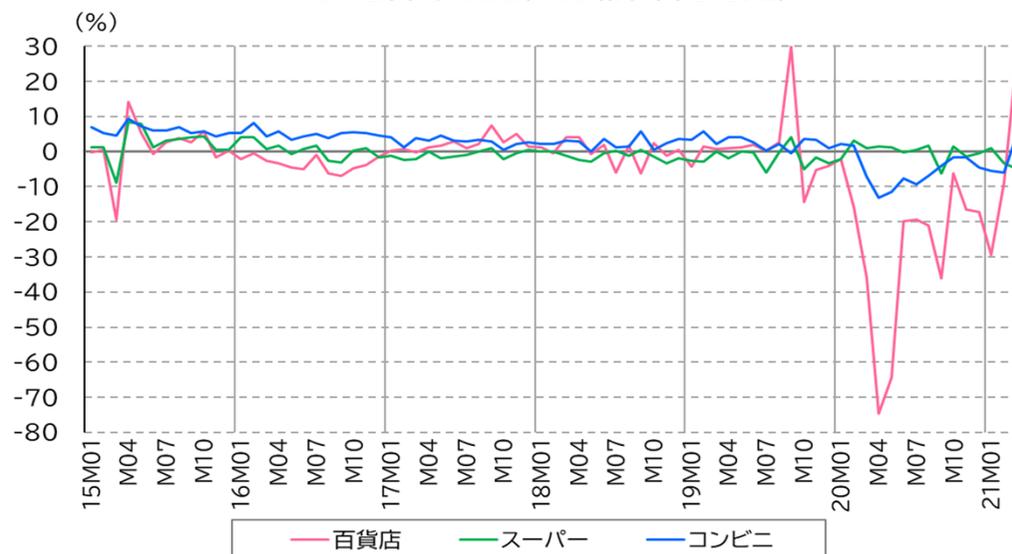
- ✓ 消費者態度指数は32.8で、前期から+1.4ポイント上昇した。3四半期連続の改善。3月には36.6となり、前年のコロナ禍が始まった時期に近い水準まで回復したが、足下4月は感染拡大を反映して34.5と3カ月ぶりに悪化した。
- ✓ 大型小売店販売額は8,490億円で、前年同期比-4.2%と6四半期連続の前年割れ。弱い動きが続いている。月次ベースでは2月まで17カ月連続でマイナスだったが、3月に同+4.4%と前年を上回った。

消費者態度指数(センチメント)



出所：内閣府『消費動向調査』、季節調整はAPIRによる。

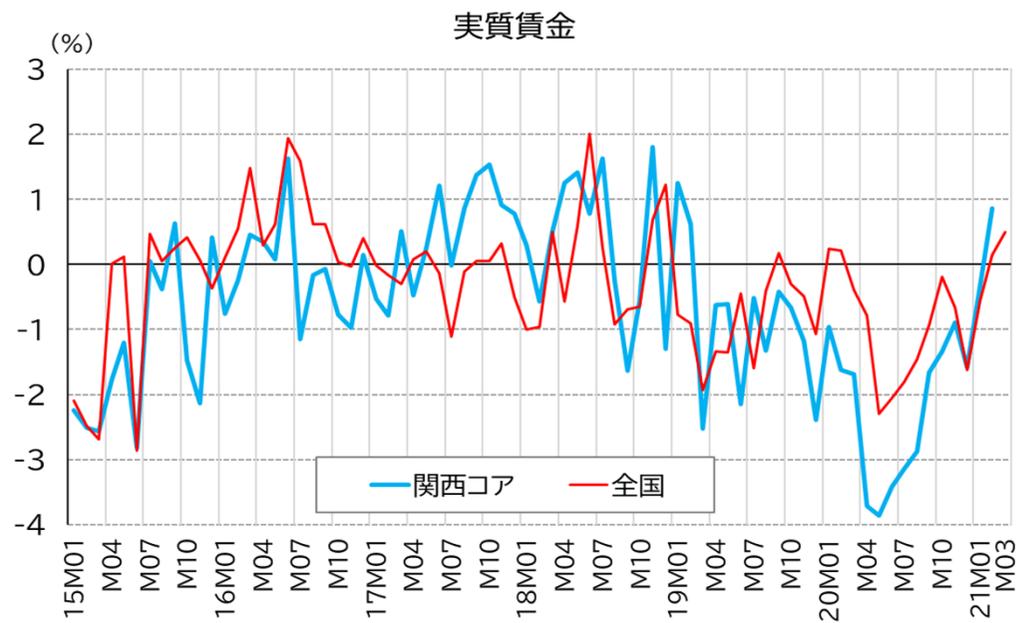
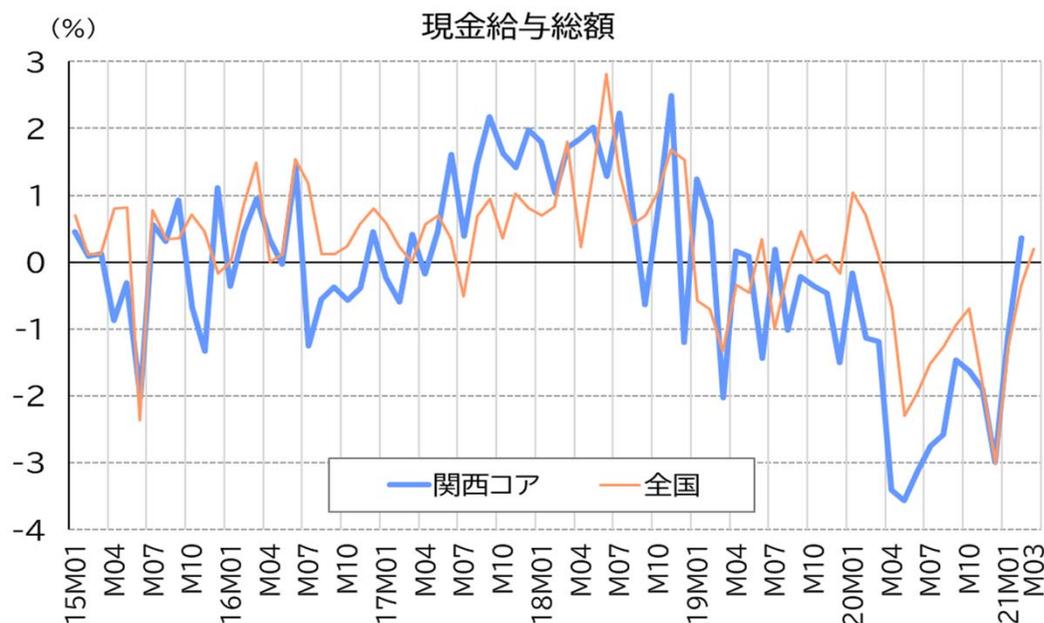
大型小売店等販売状況(前年同月比)



出所：近畿経済産業局『百貨店・スーパー販売状況』

# 所得

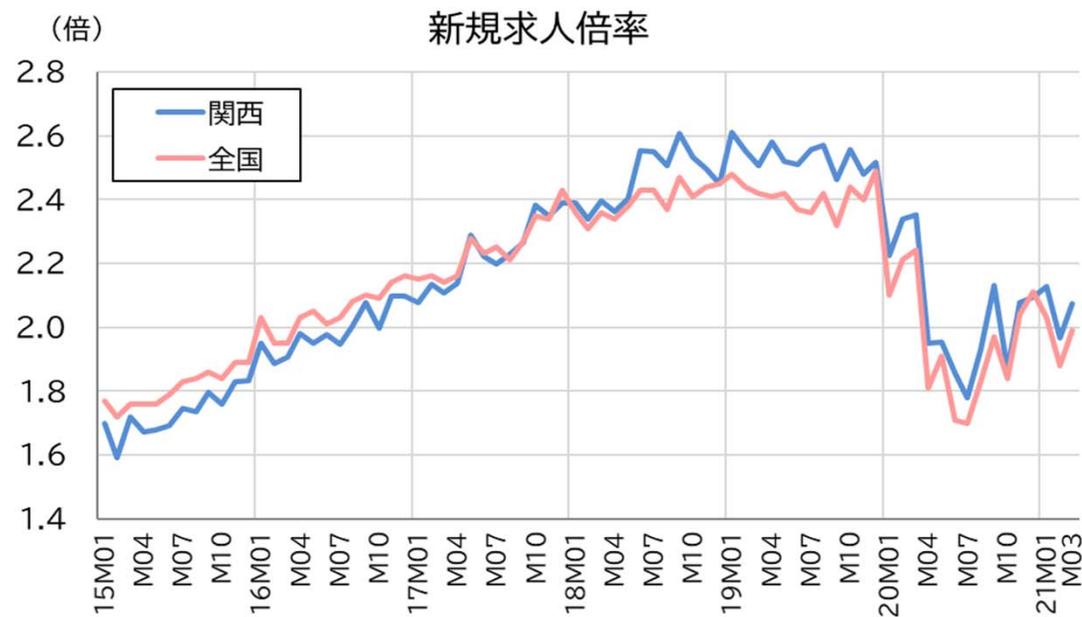
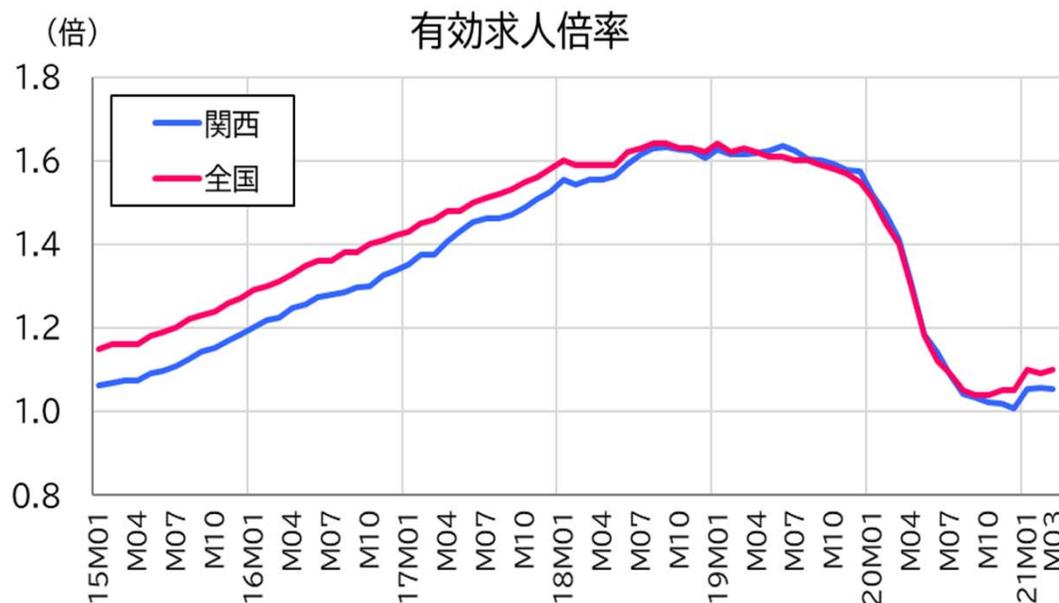
- ✓ 関西コア2府1県の現金給与総額(21年2月)は、前年同月比+0.4%で19カ月ぶりに前年を上回った。ただしこれは雇用環境の悪化から賃金水準の低いパート労働者割合が減少したためで、所得環境の本格的な改善とは言いがたい。
- ✓ 物価の影響を除いた実質賃金は、前年同月比+0.9%で24カ月ぶりに前年を上回った。



注：関西コア(京都府、大阪府、兵庫県)はAPIRによる推計。常用労働者数(2011年平均)の加重平均として算出。  
出所：厚生労働省「毎月勤労統計調査」を加工

# 雇用

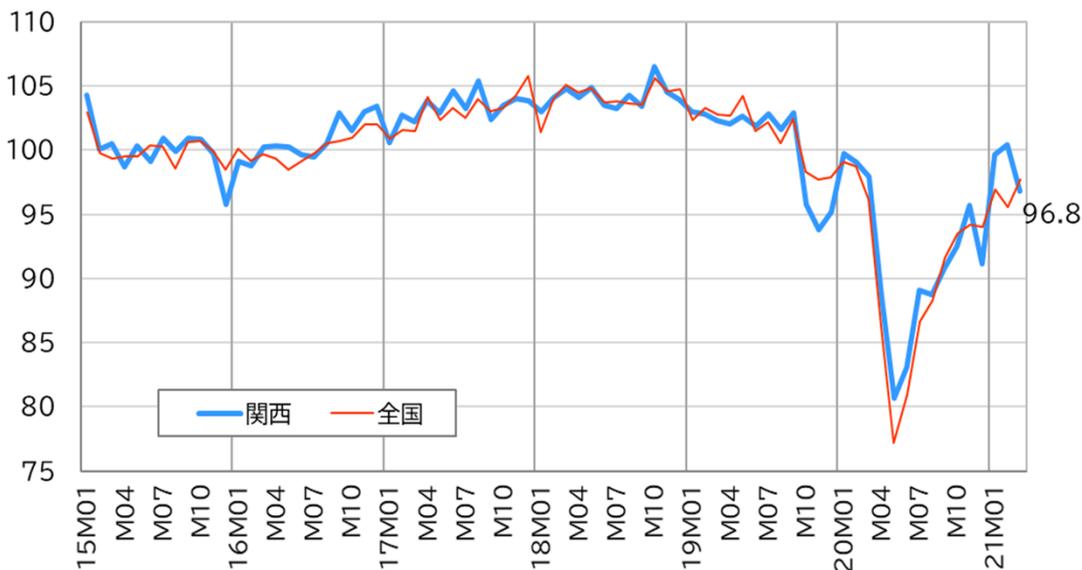
- ✓ 有効求人倍率(季調値)は1.05倍で、前期から+0.04ポイントの上昇。7四半期ぶりの改善。ただし昨年来の急激な悪化ペースに比して、足下の改善ペースは緩慢である。足下3月は1.05倍で、前年同月に比べて0.36ポイント下回っている。
- ✓ 2020年度平均の有効求人倍率は1.08倍だった。前年度から0.49ポイント低下で、1975年度以来45年ぶりの下落幅となった。
- ✓ 新規求人倍率(季調値)は2.06倍。前期から+0.04ポイントの上昇で、3四半期連続の改善。



# 生産・在庫

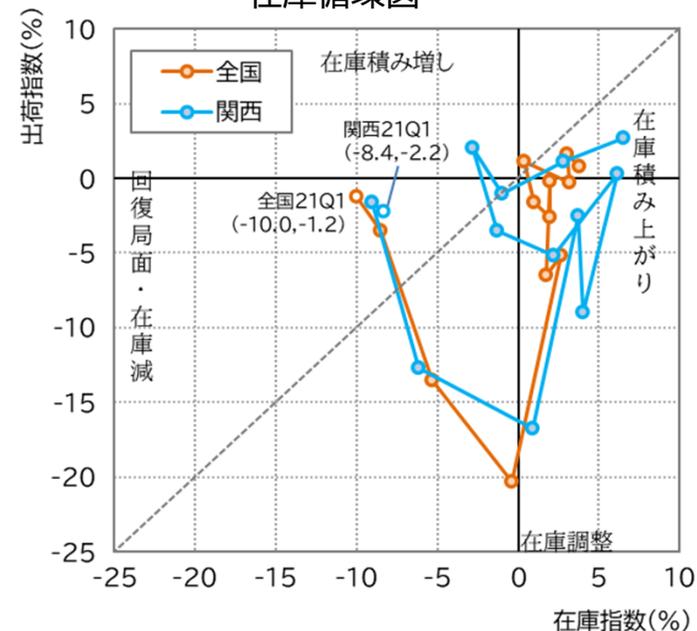
- ✓ 生産指数は98.9で、前期比+6.3%と3四半期連続の増産となった。生産用機械、電気・情報通信機械等が増産に寄与した。月次ベースでは、1月・2月は回復しコロナ禍以降で最高となる水準まで回復したが、3月は3カ月ぶりの減産だった。
- ✓ 在庫循環は、前期に引き続き在庫調整が進んでいる。在庫循環図では第3象限で45度線を越えた位置で、景気の谷を越えて回復局面にあることを示唆している。

鉱工業生産指数(2015=100)



出所：近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業生産動向」

在庫循環図

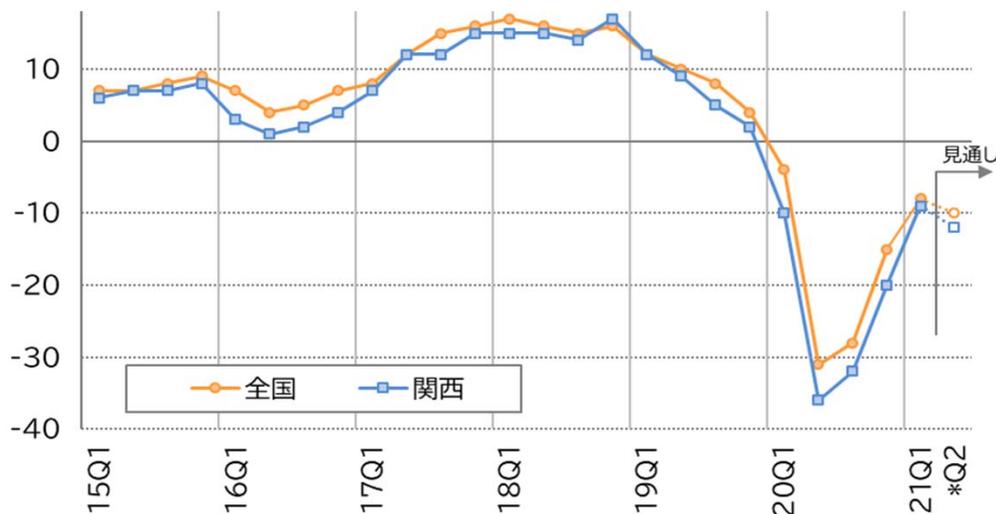


注：白抜きになっているポイントが最新時点(21年1-3月期)。

# 景況感

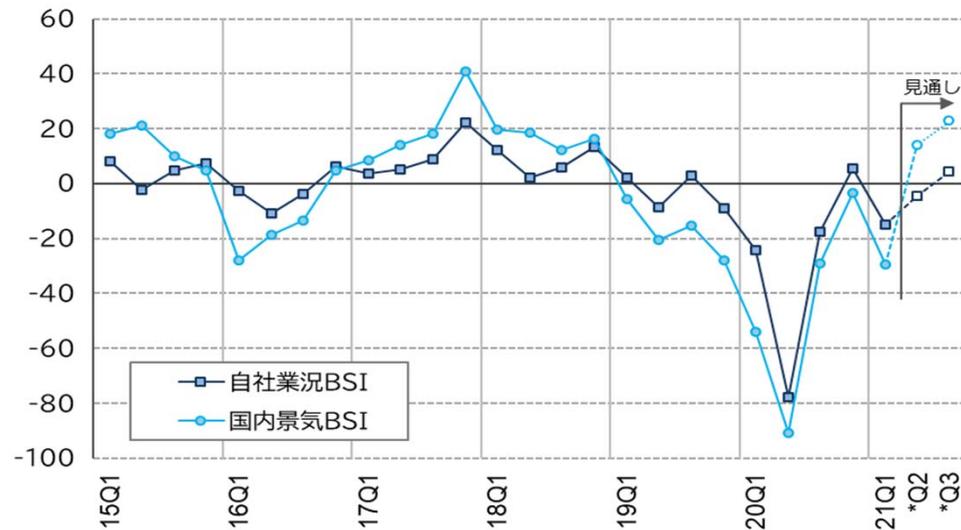
- ✓ 企業の景況感は、総じて持ち直しているが、規模・業種によって回復のペースに差が見られる。中小企業や非製造業では回復が遅れている。
- ✓ 日銀短観3月調査によると、業況判断DI(全規模・全産業)は-9。3期連続で前期から改善したが、5期連続のマイナス。製造業は-6で前回調査から18ポイントの上昇となったが、非製造業は-14で改善幅は2ポイントにとどまった。
- ✓ 大商・関経連『経営・経済動向調査』(2月調査)によると、自社業況BSIは-15.0で、-20.7ポイント下落し、2期ぶりにマイナスとなった。国内景気BSIは-29.5で9四半期連続のマイナス。

短観:企業業況判断DIの推移



注：全規模・全産業ベース。\*は見通しであることを示す。  
出所：日本銀行大阪支店『企業短期経済観測調査（近畿地区）』

関西企業のBSIの推移

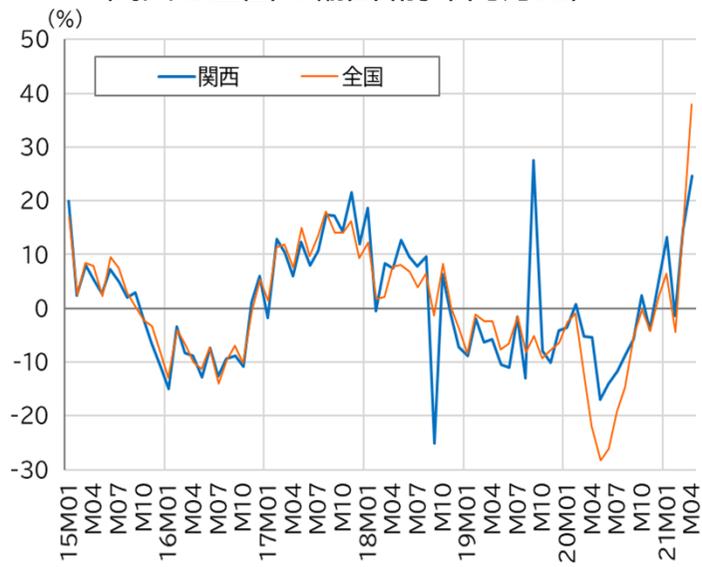


注：\*は見通しであることを示す。  
出所：大阪商工会議所・関西経済連合会『第81回経営・経済動向調査』

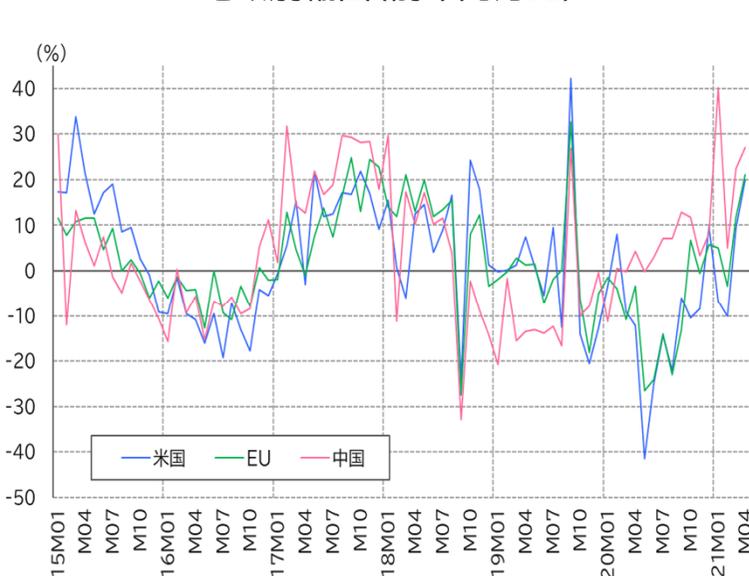
# 対外部門(貿易)

- ✓ 輸出額は4.2兆円で、前年同期比+8.8%だった。2四半期連続の前年同期比プラス。全国も9四半期ぶりに前年比増(同+6.0%)だった。昨年の反動と米中の景気回復で高い伸びが続いている。足下4月は前年同月比+24.5%と2カ月連続のプラス。
- ✓ 輸出を地域別に見ると、中国向けの回復が続いており、11カ月連続のプラス。また、米国向け、EU向けも回復しており、4月は前々年の水準を上回った。
- ✓ 輸入は3.5兆円で、前年同期比+3.7%となり、6四半期ぶりに前年を上回った。

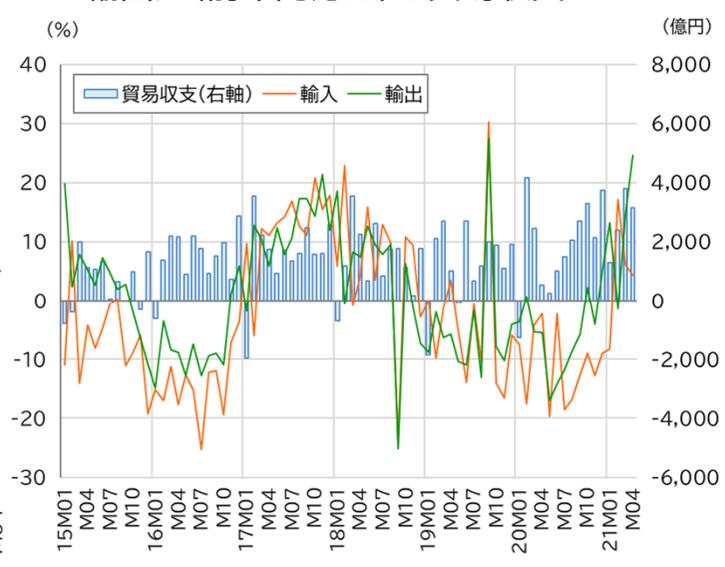
関西と全国の輸出(前年同月比)



地域別輸出(前年同月比)



輸出入(前年同月比)と貿易収支

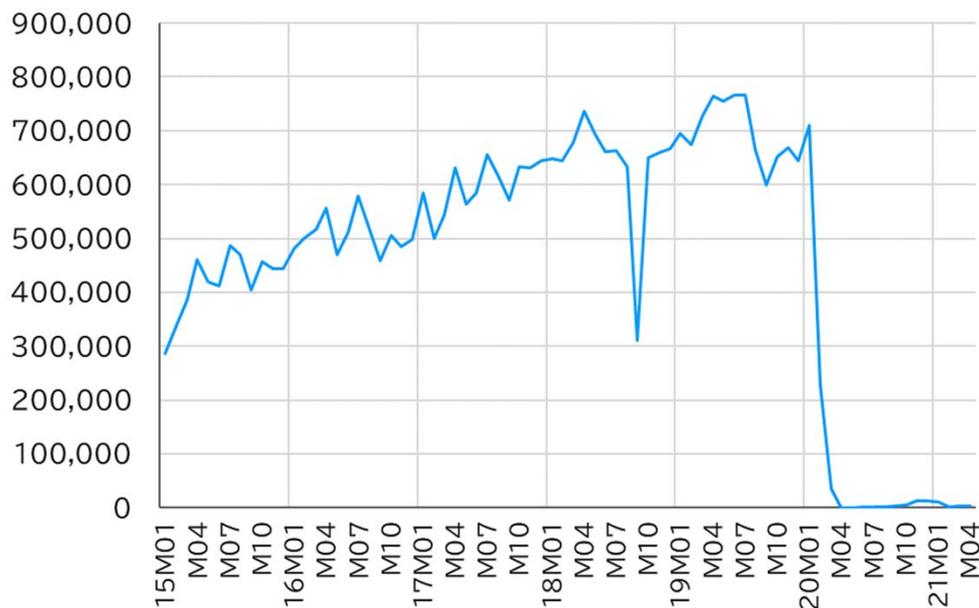


出所:大阪税関『近畿圏貿易概況』

## 対外部門(インバウンド)

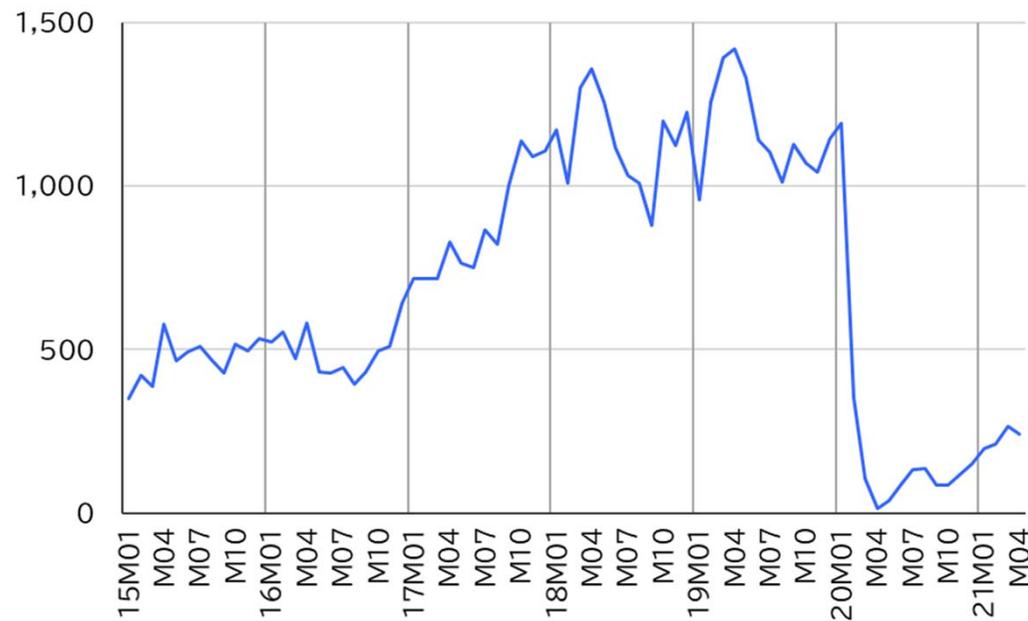
- ✓ 関空経由訪日外国人数、関西百貨店免税売上はそれぞれ前年同期比-98.4%、-59.1%だった。
- ✓ 2021年1月14日からビジネスラック・レジデンスラックの運用が停止され、5月時点でも継続している。インバウンド分野では回復の見込みが立たない。

関空経由の訪日外国人数(人)



出所:法務省『出入国管理統計』

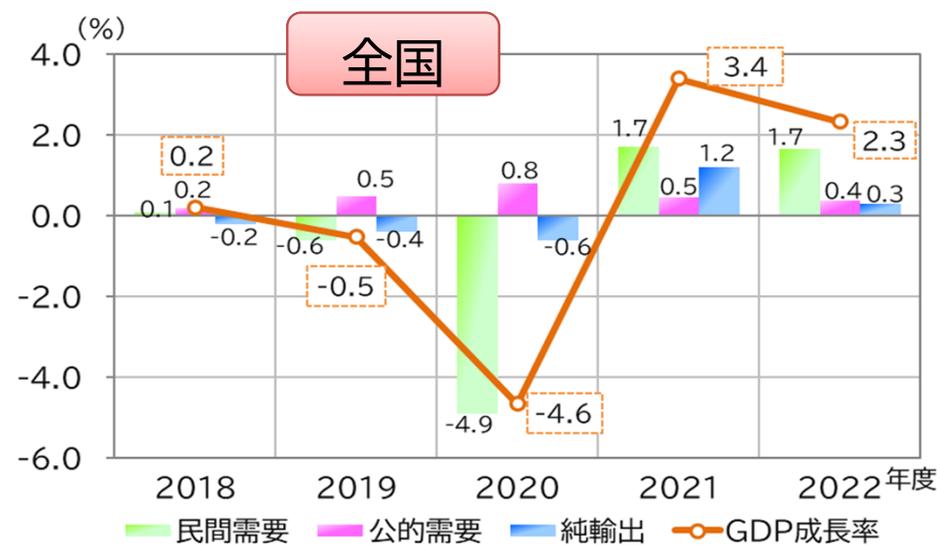
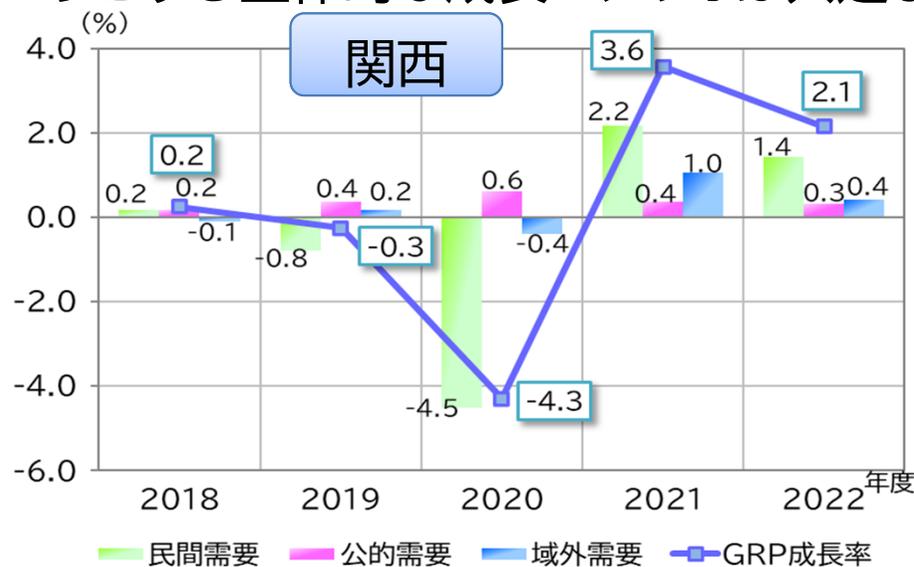
百貨店免税売上(2013年4月=100)



出所:日本銀行大阪支店『百貨店免税売上(関西地区)』

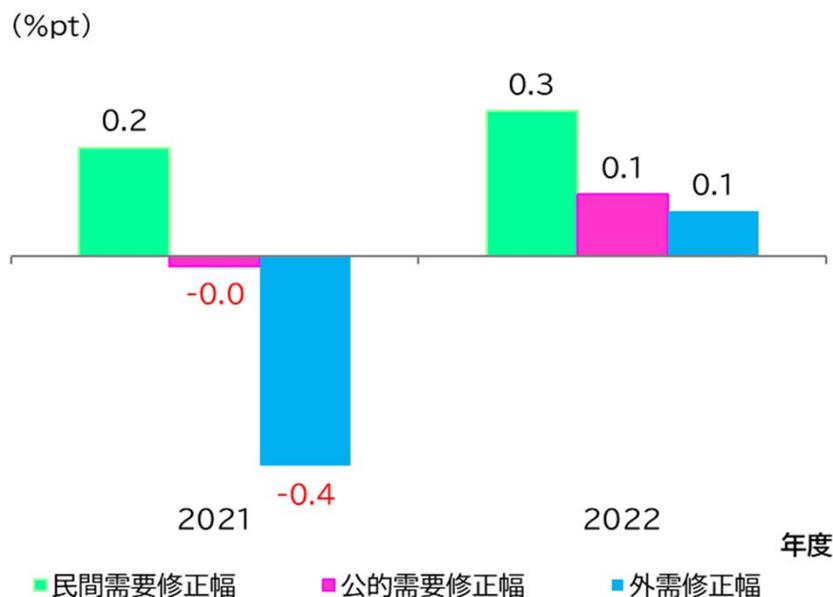
# GRP予測結果と成長に対する寄与

- ✓ 関西の実質GRP成長率を2021年度+3.6%、22年度+2.1%と予測。20年度の大幅マイナスから21年度以降回復に転じる。ただしコロナ禍前の水準に戻るのは22年度以降となる。
- ✓ 成長に対する寄与度を見ると、民間需要が21年度+2.2%ポイント、22年度+1.4%ポイントと成長の牽引役となる。また、公的需要・域外需要も成長を下支えし、バランスの取れた成長となる。
- ✓ 日本経済予測と比較して、21年度以降、ワクチン接種の進展に伴って回復基調に向かうとする全体的な成長シナリオは共通している。



## 前回予測からの修正

- ✓ 前回予測(3月1日公表)に比べて、21年度は-0.2%ポイントの下方修正、22年度は+0.5%ポイントの上方修正とした。
- ✓ 21年度は、輸入の上方修正により外需が下方修正となった。
- ✓ 22年度は、成長加速を見込み民需、公需、外需の各項目とも上方修正。

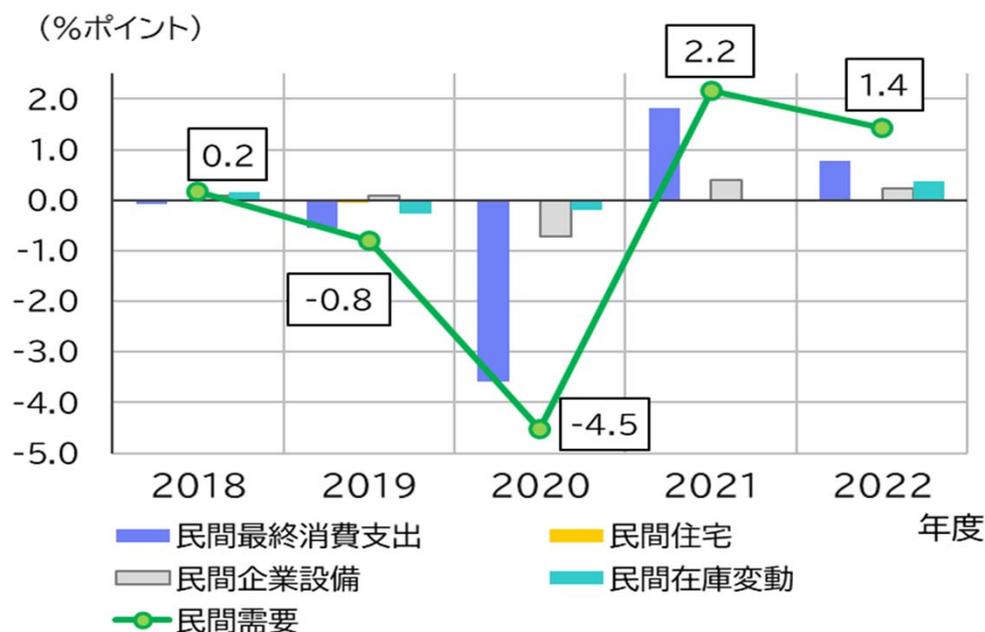


年度	2021年度	2022年度
GRP成長率	<b>-0.2%ポイント</b>	<b>+0.5ポイント</b>
民間需要	+0.2%ポイント	+0.3%ポイント
公的需要	-0.0%ポイント	+0.1%ポイント
域外需要	<b>-0.4%ポイント</b>	+0.1%ポイント

注:四捨五入の関係で、需要構成項目の修正幅を合計してもGRPの修正幅とは必ずしも合致しない。

# 民間部門の寄与

- ✓ 民間需要のGRP成長率に対する寄与度は、2021年度+2.2%ポイント、22年度+1.4%ポイントとなる。プラスに転じるのは2018年度以来で、3年ぶり。
- ✓ 家計部門の実質GRP成長率寄与度は21年度+1.8%ポイント、22年度+0.8%ポイントとなる。民間消費は18年度から3年連続で前年比減。
- ✓ 企業部門の実質GRP成長率に対する寄与度は21年度+0.4%ポイント、22年度+0.6%ポイントと小幅ながら成長に貢献する。



# 結果表

年度	関西経済					日本経済				
	2018	2019	2020	2021	2022	2018	2019	2020	2021	2022
民間最終消費支出	▲ 0.1	▲ 0.9	▲ 6.1	3.1	1.4	0.1	▲ 1.0	▲ 6.0	2.8	1.6
民間住宅	0.1	▲ 2.2	▲ 0.9	▲ 1.1	1.2	▲ 4.9	2.5	▲ 7.1	▲ 0.0	1.2
民間企業設備	0.6	0.6	▲ 5.2	2.8	1.8	1.0	▲ 0.6	▲ 6.9	2.1	3.1
政府最終消費支出	0.8	1.7	2.8	1.5	1.3	1.1	2.0	3.1	1.8	1.3
公的固定資本形成	1.8	1.5	2.5	1.5	1.7	0.8	1.5	4.0	1.8	1.7
輸出	▲ 0.7	▲ 0.6	▲ 5.9	11.6	3.9	2.0	▲ 2.2	▲ 10.4	12.0	4.2
輸入	▲ 1.1	▲ 1.3	▲ 5.0	9.5	2.9	3.0	0.2	▲ 6.8	4.9	2.7
実質域内総生産	0.2	▲ 0.3	▲ 4.3	3.6	2.1	0.2	▲ 0.5	▲ 4.6	3.4	2.3
民間需要(寄与度)	0.2	▲ 0.8	▲ 4.5	2.2	1.4	0.1	▲ 0.6	▲ 4.9	1.7	1.7
公的需要(寄与度)	0.2	0.4	0.6	0.4	0.3	0.2	0.5	0.8	0.5	0.4
域外需要(寄与度)	▲ 0.1	0.2	▲ 0.4	1.0	0.4	▲ 0.2	▲ 0.4	▲ 0.6	1.2	0.3
名目域内総生産	0.2	0.5	▲ 3.7	3.0	2.9	0.1	0.3	▲ 4.0	3.0	3.0
GRPデフレーター	▲ 0.1	0.7	0.6	▲ 0.5	0.7	▲ 0.1	0.9	0.6	▲ 0.3	0.6
消費者物価指数	0.5	0.6	▲ 0.3	0.5	0.5	0.8	0.6	▲ 0.4	0.4	0.5
鉱工業生産指数	0.1	▲ 4.1	▲ 8.2	7.4	2.4	0.3	▲ 3.8	▲ 9.5	9.2	2.6
完全失業率	2.8	2.6	3.1	3.2	2.9	2.4	2.3	2.9	3.0	2.9

(注)単位%、完全失業率以外は前年度比伸び率。関西経済の2017年度は実績値、18-20年度は実績見通し、21-22年度は予測値。

日本経済の19年度までは実績値、20年度以降は「第133回景気分析と予測」による予測値。

# 関西各府県のGRPの早期推計(2019-20年度)

- ✓ 各県のGRP確報値(『県民経済計算』)の公表は、例年、国のGDPの公表時期に比して2年ほど遅れる。関西2府4県GRPの過年度の未公表分の実績見通しについては、当研究所が独自に早期推計を行っている。
- ✓ 2019年度は、関西全体では-0.5%のマイナス成長。2020年度は、COVID-19の経済的影響で関西各府県でマイナスの寄与度が大きくなり、-4.3%のマイナス成長(2年連続)。国全体(-4.6%)と同程度と見込まれる。

## 早期推計の結果

地域	大阪府	兵庫県	京都府	滋賀県	奈良県	和歌山県	関西 (2府4県計)	全国 (支出側)
モデルの推計期間	2001-18	2001-18	2001-18	2001-18	2001-17	2006-18		
●モデルの適合度								
自由度修正済決定係数	0.92	0.94	0.92	0.90	0.68	0.70	-	-
GRP水準のMAPE(%)	0.37	0.69	0.88	1.79	0.69	1.28	-	-
GRP成長のMAPE(%)	0.48	1.03	1.31	1.75	1.02	1.92	-	-
ダービンワトソン比	1.50	2.40	1.38	0.81	1.91	2.02	-	-
●実質GRP(兆円)								
FY2018(実績)	38.98	20.61	10.36	6.61	3.67	3.44	83.67	554.3
FY2019(早期推計)	38.77	20.72	10.22	6.50	3.63	3.40	83.22	551.5
FY2020(早期推計)	37.06	20.15	9.65	6.07	3.50	3.26	79.68	525.9
●実質成長率(%)								
FY2018(実績)	0.1	-0.4	-0.6	1.2	1.5	3.5	0.2	0.2
FY2019(早期推計)	-0.6	0.5	-1.4	-1.8	-1.0	-1.3	-0.5	-0.5
FY2020(早期推計)	-4.4	-2.7	-5.5	-6.6	-3.7	-4.1	-4.3	-4.6
●実質成長率(%): 寄与度ベース								
FY2018(実績)	0.1	-0.1	-0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	-
FY2019(早期推計)	-0.3	0.1	-0.2	-0.1	0.0	-0.1	-0.5	-
FY2020(早期推計)	-2.1	-0.7	-0.7	-0.5	-0.2	-0.2	-4.3	-

## 関西の実質成長率への府県別寄与度

